

2017年11月12日

福音書からのメッセージ

だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。
(マタイによる福音書 25 章 13 節)

今週の福音書は、10 人のおとめのたとえです。王子の婚宴を待つ 10 人のおとめがいました。そのうち 5 人は賢いおとめで、残りの 5 人は愚かなおとめだったそうです。賢いおとめはいつ婚宴が始まってもいいように、予備の油を準備していました。ところが愚かなおとめは、予備の油を持っていなかったため、婚宴に間に合わず、その祝いの席から締め出されてしまったという物語です。

イエス様は、天の国とはこのようなものだと言います。そして「目を覚ましていなさい」と語られます。わたしたちはこのたとえから、どのようなメッセージを受け取ればよいのでしょうか。

この物語を読んで、自分はどちらのグループに属していると思いますか。自分は賢いおとめの一人だと思っているなら、それでいいでしょう。しかしいつも準備を待たない自分につけられない人は、多いのではないのでしょうか。

いつも目を覚ましているということは、心をいつも神さまに向け、いつどのようなときにも神さまの声に耳を傾けることだと思います。しかしわたしたちは、本当に弱いところを多く持つ一人一人です。完全な人など、この世にはいないのではないのでしょうか。だとしたら、愚かなおとめであるわたしたちは、天の国から締め出されるしかないのでしょうか。



イエス様はこのたとえを、十字架に向かわれる歩みの中で語られました。すでにイエス様は、十字架につけられなければならないことをご存じでした。イエス様はわたしたちを生かすために来られたのです。締め出すのではなく、天の国に招くために十字架につけられるのです。

イエス様はわたしたちに、準備をするように言われます。油を用意するように言われるのです。イエス様は暗闇からわたしたちを導き出す光として、この世に来られました。わたしたちがイエス様を受け入れるということは、わたしたちが手にするともしびが、いつまでも燃え続けるということです。用意している油が、いつまでも尽きないということです。

わたしたちの備えとは、そういうことではないのでしょうか。24 時間、いつどのようなときも神さまに心を向け続けることは、難しいかもしれない。しかしイエス様を信じ、救い主として受け入れる。そのことで、わたしたちは天の国の祝宴に招かれるのではないのでしょうか。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>